

SCHOOL OF BUSINESS ADMINISTRATION

経営学部のススめ

世界へ、未来へ——。 2019



地球市場時代のフロンティアを創造する

経営学部は現在、「グローバル経営人材」と「価値創造人材」の育成に力を注いでいます。日本企業のグローバル化と多様化の進む社会において、コミュニケーション能力、プロジェクトを立ち上げ導く企画力やリーダーシップなどが求められています。これらを磨くために、経営学部では様々なサポートプログラムを用意しています。



グローバル社会に通用する力を身に付けよう



GREAT (Global Resources English Applied Track)

英語スキルと専門知識の融合

グローバル経営人材育成トラック「GREAT」は、将来、海外留学や国際ビジネス分野での活躍をめざす学生のための4年間のカリキュラムです。特別編成の少人数クラスで実践的な英語スキルを身につけながら、英語による授業科目で教養や専門知識を学びます。経営学部独自の海外短期プログラム・長期留学も積極的に利用して、自らグローバル社会への扉を開き、将来のキャリア・パスへとつなげましょう。3年次からは経営学研究科との共同設置科目を履修して、さらに専門的な内容を英語で学ぶこともできます。また、2年次修了時点の成績、GREAT総合試験の結果を基に3年次からの海外留学などを支援することを目的とした「GREAT奨学金」の制度も設けています。トラックを修了した成績優秀者にはTOEFL 試験の達成度や留学経験の有無等に応じて修了証書が授与されます。

TOEIC (入学時に実施) や英語4技能資格・検定試験のスコア上位者が対象となりますが、1年次春学期でGREATの対象にならなかった学生でも、所定の要件を満たせば1年次秋学期、2年次春学期からGREATに任意で参加することができます。

※1 入学時に実施されるTOEIC®のスコア上位者に英語4技能資格・検定試験の高スコア保持者を加えた約100名が対象になります。

※2 図中のIBP、ISIBM、長期留学は応募可能な海外留学の時期を示します。なお、海外留学はGREAT修了の必須要件ではありません。



	1年次	2年次	3年次	4年次
実践的な英語スキル	「Study Skills」や「English for Business Studies I」などの科目において、4年間のGREATや正規留学に必要な英語スキルの基礎を学びます。	「English for Business Studies II」や「Academic Writing II」などの科目において、より高度な英語スキルを身につけます。	1・2年次で学んだ英語スキルと専門知識をさらに発展させ、「ビジネス英語」や「ビジネス・プレゼンテーション」などの科目においてビジネスの専門分野で必要な英語スキルを学びます。	
英語による専門知識	「Global Issues」などの科目においてグローバル社会に通用する国際教養を英語で学びます。	「Fundamentals of Management」「Intercultural Communication」などの科目において英語による専門知識の基盤作りを行います。	より専門的な経営・会計・公共経営学科専門科目を含む幅広い英語による授業科目を履修します。	
			経営学研究科との共同設置科目	

IBP (International Business Program)

世界への初めの一步! 世界への視野を広げるきっかけに!

IBPは、経営学部独自の海外短期留学を行う実習科目で、2002年度から課外の海外語学研修としてスタートし、これまでに650名以上の経営学部生が参加しています。実習先では、英語研修、現地企業訪問、ホームステイなどを通じ日本と異なる社会や文化を体験します。英語の学習だけでなく、相手国の生活や文化、習慣を身近に体験することで国際理解を深めるねらいがあります。

正規の科目として、単位付与(計3単位)しています。生の英語に触れる機会として、また半年や1年といった海外留学を希望する方にはその足がかりとして積極的に参加することを期待しています。

2019年度予定

実習先 ▶ Portland State University
(アメリカ オレゴン州・ポートランド)
San Jose State University
(アメリカ カリフォルニア州・サンノゼ)

日 程 ▶ ① IBP A (夏期)
ポートランド州立大学 8月14日(水)～9月7日(土)
② IBP B (春期) 2・3月(30日前後)

ISIBM (International Summer Institute for Business Management)

カナダで学ぶビジネスマネジメントプログラム

経営学部の協定校ヴィクトリア大学グスタフソン・ビジネス学部(カナダ・ヴィクトリア)にて行われる3週間のビジネスマネジメントプログラムです。経験豊かな教授陣による授業やゲストスピーカーによる講義、企業訪問、パーティー、アクティビティなどが組み込まれています。プログラム修了後、最大6単位まで卒業要件単位として認定されます。参加者の中から条件を満たした学生には補助金が支給されます。(応募者多数の場合は選考あり)

2019年度

実習先 ▶ University of Victoria (カナダ ブリティッシュコロンビア州・ヴィクトリア)
日 程 ▶ 8月3日(土)～8月23日(金) 21日間 [プログラム日程]



学部間協定留学

海外の大学で修得した単位の一部認定も!

明治大学経営学部と交換留学の協定を締結している以下の協定校に、経営学部生が交換留学生として留学するプログラムです(学位取得を目的とした留学ではありません)。半期または通年で留学しても、諸条件を満たせば4年間で卒業することも可能です。学費は本学へ納入する必要がありますが、留学先の授業料は免除されます。

【ヴィクトリア大学 [グスタフソン・ビジネス学部]
(カナダ・ヴィクトリア)

【カーディフ大学 [カーディフビジネススクール]
(英国・ウェールズ)

【ESCEM ビジネスマネジメントスクール
(フランス・トゥール)

【IPAG ビジネススクール
(フランス・パリ/ニース)

【ソウル国立大学 [経営学部]
(韓国・ソウル)

【中山大学 [国際金融学院]
(中国・珠海)

【対外経済貿易大学 [国際商学院]
(中国・北京)

【香港城市大学 [商学院]
(中国・香港特别行政区)

【IE大学
(スペイン・セゴビア/マドリッド)

【オスナブリュック応用科学大学 [経営管理・社会科学部]
(ドイツ・オスナブリュック)

【ロッテルダム応用科学大学 ロッテルダムビジネススクール
(オランダ・ロッテルダム)

【シーナカリンウィロート大学 [経済公共政策学部] [サステナビリティ研究国際学部]
(タイ・バンコク)

【東フィンランド大学 [社会科学・ビジネス学部]
(フィンランド・ヨエンスー)

2019年度

- ① 7月選考試験: ソウル国立大学のみ
(翌年の3月から留学開始)
- ② 11月選考試験: ソウル国立大学以外の12大学13学部
(翌年の8月または9月から留学開始)

Be Active!! ～海外留学単位認定制度～

学生の皆さんに海外留学を強く勧めています。海外の協定校・認定校で正規授業を履修し、単位を修得した場合、留学先での勉強内容および修得した単位数を積極的に認定する海外留学単位認定制度を設けています。

デュアルディグリー・プログラム

日本と海外の学位を両方取得できる、 計5年間のプログラム

明治大学経営学部のデュアルディグリー・プログラムは、明治大学経営学部での2.5年間、ヴィクトリア大学グスタフソン・ビジネス学部での2.5年間、計5年間で日本の経営学士とカナダの商学士の両方取得できるプログラムです。学部間協定留学(1学期または1年間)よりも長い期間にわたって海外の大学で学ぶことができ、さらに、ヴィクトリア大学グスタフソン・ビジネス学部では約1年間の実務経験を積むことができる有償インターンシップに参加します。2017年度からヴィクトリア大学への派遣を開始し、2018年度にも2年連続で学生を派遣しています。



有償インターンシップ

有償インターンシップとは、在学中にフルタイムで給与を得ながら実務経験を積むことができる教育プログラムです。ヴィクトリア大学グスタフソン・ビジネス学部に入学後、夏休み(2回)と1学期間(1回)の有償インターンシップに参加します。

i-meeting (アイ・ミーティング)

キャンパス内から異文化交流! 留学生の友達を増やそう!

i-meeting は、経営学部が行っている独自の国際交流イベントです。留学生(交換留学生を含む)、一般学生、教職員が参加し、異文化に関するプレゼンテーションやゲーム、各国料理を楽しみながら、国際理解を深め、異文化コミュニケーションのスキルを高めることを、ねらいとしています。2018年度は、和泉キャンパスで3回実施しました。



英語運用能力向上プログラム

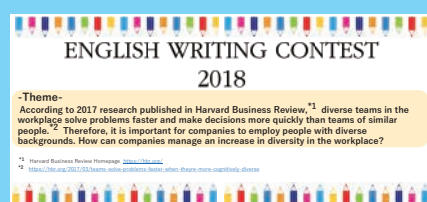
英語プレゼンテーション大会

英語によるプレゼンテーション能力を向上させるためのプログラムで、個人、グループを問わず応募できます。テーマに沿って研究してきた成果を英語で披露し、優秀なプレゼンターには表彰並びに賞金を授与します。2018年度は一次審査を通過した10組の学生が発表しました。



英語ライティングコンテスト

グローバル社会においては、「話す」英語によるコミュニケーションと同様、「書く」英語によるコミュニケーションも必要です。英語で文章が書けること、自分の考えを英語でまとめ、説得力のある内容を発信できることが求められます。本コンテストは、800語程度の英語エッセイで競うことにより「書く」英語力の向上をめざします。2018年度は5名の学生が受賞し、賞状と副賞が贈られました。



外国語検定試験による単位認定

2017年度から外国語検定試験による単位認定制度を開始しました。右の表に示す各検定試験の最終到達スコアに応じて、最大4単位まで「認定科目(外国語科目)」として認定され、卒業要件単位に算入されます。

認定単位数	各検定試験の取得スコア			
	TOEIC®	TOEFL ITP®	TOEFL iBT®	IELTS™
1	680 - 725	490 - 509	57 - 63	4.5
2	730 - 775	510 - 519	64 - 67	5.0
3	780 - 825	520 - 529	68 - 70	—
4	830 -	530 -	71 -	5.5 -

※IELTSを利用した単位認定は、認定単位数が1単位、2単位、4単位の場合に限りです。 ※スコアの証明書類は申請時から遡って2年以内に受験したものに限りです。



価値を創造する力を身に付けよう



フィールドスタディ

講義だけじゃない！「現場を体感」し、「現場で学ぶ」教室外学習

価値創造人材育成の一環として、「自分で道理を考え、自分で適切に行動する能力」を創造することを目的に、調査・実習に力点を置いた授業を展開しています。「フィールドスタディ」は、フィールドワークを通じた資料の収集と、それに基づくレポートの作成やプレゼンテーションの実施を核とする実習科目です。1次ステップとして調査対象を観察し、新たな知見を得て自ら行動する能力に加え、調査対象（企業、自治体、NPO法人、特定地域の住民など）への提言を含んだレポート作成やプレゼンテーションを実施できるコンサルテーション能力の向上を目指しています。調査、資料収集、調査対象への提言とフィードバック、一連の作業を学生が主体的に実施していく体験型プログラムになっています。

2019年度 フィールドスタディテーマ一覧（予定）

テーマ	実習先（予定）	教員
インドネシア・ジャワ島とバリ島	インドネシア（ジャカルタ、ジョグジャカルタ、ソロ、バリ島）	阿部 卓
マレー半島の国々ーシンガポール、マレーシア、タイー	シンガポール、マレーシア（ジョホールバル、マラッカ、ペナン）、タイ（クラビー、バンコク）	阿部 卓
歴史文化基本構想と地域力創出ー青森県の場合ー	青森県（青森市）	居駒 永幸
宮古島の社会と文化	沖縄県（宮古島）	居駒 永幸
様々な組織体によるCSR活動	関西方面	石津 寿恵
ニューヨーク小売業調査	米国（ニューヨーク）	大石 芳裕
インドネシア日系企業調査	インドネシア（ジャカルタ、ジョグジャカルタ）	大石 芳裕
高齢社会対応まちづくり活動を支援する：鎌倉編	神奈川県（鎌倉市）	大方 潤一郎
文明開化と異文化交流：函館のケースを考える	北海道（函館市）	折方 のぞみ
日仏社会文化比較研究	フランス（パリとその近郊都市）	折方 のぞみ
日中企業の人材育成に関する調査研究	国内	郝 燕書
日中企業の人材育成に関する調査研究	中国（北京・上海）	郝 燕書
地域の潜在力を活かしたまちづくり：尾道市を中心に	広島県（尾道市）	菊地 端夫
京都企業の歴史と現況を探究する	京都府	佐々木 聡
日本におけるEUI企業の人材マネジメント	国内	清水 一之
EUI企業のマネジメント	欧州諸国（ドイツ、オランダ、アイルランド等）	清水 一之
自らなりわいを創る	長野県（上田市）	中澤 高志
「地方創生」の現場学	大分県（別府市、佐伯市）	中澤 高志
日本企業のグローバル戦略における本社の役割	国内外	原田 将
東南アジアにおける日本企業のマーケティング戦略	タイ（バンコク等）	原田 将
地域企業・産業調査	山形県（酒田市）、新潟県	藤江 昌嗣
地域企業・産業調査	京都府、滋賀県（大津市）等	藤江 昌嗣

フィールドスタディ（実績）



「地域企業の歴史と現在」

実習先：京都 ※写真はオムロン京都太閤



「中国における日系企業の人材マネジメント」

実習先：北京／上海 ※写真は花王 上海工場

グローバル・サービスラーニング（Global Service Learning）

海外で社会貢献活動を体験しよう！ ボランティア体験から生きた知識を学ぶ

グローバル・サービスラーニング（GSL）とは、2015年度から経営学部の実習関連科目として設置された経営学部独自の海外サービスラーニング科目です。サービスラーニングとは米国の大学で広く取り入れられた実践的教育活動で、単なるボランティア実習ではなく、「社会奉仕」（サービス）活動を通じて課題解決のための知識を習得することを目的としています。日本と異なる経済状況、文化・生活習慣の中でボランティアを経験し、教員や専門家の指導の下、現地の具体的な社会課題について考え、解決する為の社会貢献活動を行います。本科目を履修し修了すると2単位が付与され、卒業要件単位に算入されます。

2019年度

GSL A	実習先	▶ インドネシア・バリ島
	日程	▶ 8月・9月（14日間）
GSL B	実習先	▶ フィリピン・セブ島
	日程	▶ 2月・3月（14日間）



フューチャースキル講座（経営総合講義A・B） [1年次開講科目]

実践的な課題で未来を掴む

フューチャースキル講座は、1年生を対象としたPBL (Project Based Learning) 型の実践授業です。授業では、実際のビジネスの現場で直面するような問題が課題として取り扱われます。受講生はチームに分かれて、課題解決の方策を考え、調べ、検討し、その結果をまとめ、プレゼンテーションします。ビジネス・シーンをリアルに体験できる授業です。

春学期開講の「経営総合講義A」では、企業の第一線で活躍するビジネスパーソンをお招きし、その業界が直面する課題に取り組みます。秋学期開講の「経営総合講義B」では、経営学の理論を使ったより発展的な課題解決型のグループワークを行います。

■協力企業と課題 (2018年度・経営総合講義A・B)

- 関電工「設備工事業にもアフター5を。働き方・休み方改革」
- 京王電鉄「新技術 (AI・IoTなど) を活用した既存事業の拡大に資する企画の立案」
- 三井住友海上火災保険「1DAYレジャー保険の大学生向けマーケティング戦略を立案せよ!!」
- ホテルグランドパレス「ホテル商品 (オレンジケーキ等) の販路拡大」
- SHIBUYA109エンタテインメント「インバウンドに関する課題」
- プリンスホテル「品川プリンスホテル メインタワーの遊休スペースの有効活用」
- 東急電鉄「渋谷の街が持続的に成長し、世界からも注目される街「エンタテインメントシティ SHIBUYA」の実現に向けた具体的な戦略立案」

■講義の流れ (以下のフローを2回)

課題提示 → グループ活動 → 一次提案 (プレゼン) → グループ活動 → 最終提案 (プレゼン) → 振り返り



キャリア形成入門 [1・2年次開講科目]

自分なりのキャリアビジョンを描こう

本講義では、仕事とは何か、キャリアとは何かを考えていくとともに、社会人として必要な、いわゆる「社会人基礎力」を醸成していくことを目的としています。授業は各分野の経験豊かな講師陣によってオムニバス形式で展開され、キャリアプランの作成やビジネスマナーなど、一部実習形式も含んでいます。



インターンシップ実習 [2・3年次開講科目]

キャンパスの外へ飛び出せば、その経験が力になる

社会人・職業人への準備段階として、また、経営学部で学んだ知識を実践する場として、企業・行政・NPO等の現場での就業体験を行う実習科目です。ビジネスマナー研修などの事前学習から事後報告まで一貫して行います。本科目を履修し修了すると3単位が付与され、卒業要件単位に算入されます。



就職セミナー

就職活動を乗り越えた先輩にアドバイスをもらおう!

経営学部では【ジュニア・キャリア・アドバイザー (JCA) 制度】があり、厳しい就職活動を経験した経営学部4年生が、JCAとして経営学部の1～3年生を対象に就職活動支援を行っています。経営学部の就職セミナーは、企業主催の相談会とは異なり、同じ学部の先輩たちに近い距離で相談ができ、先輩たちの経験を親身に話してもらえるところが最大の魅力です。



SUPPORT 3

闘える「会計力」を身に付けよう



CAP (Course of Accounting Profession)

豊富なサポート体制で会計のプロを目指す

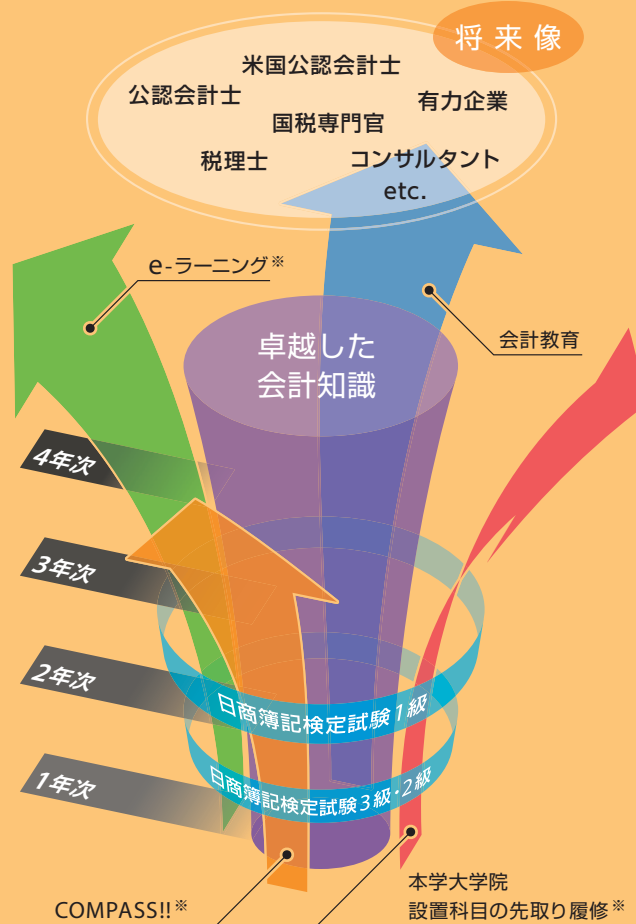
2018年度から開始した高度職業会計人養成トラック「CAP」は、公認会計士、税理士、米国公認会計士などの資格試験の在学中合格を目指す学生や、卒業後に卓越した会計の知識とスキルを武器にコンサルタントや有力企業で活躍しようとする学生のためのカリキュラムです。すでに簿記検定の資格を取得しているか否かにかかわらず、ビジネスに必須となる会計の知識とスキルを身に付けたいという学生であれば誰でも参加できます。

CAP専用クラスは1年次から設置されており、より早くより体系的に会計の専門知識とスキルを学べます。また、個人のペースで学習できるe-ラーニング※や、学習上の悩みなどを個別に相談できるCOMPASS!!※を通じて、学生1人ひとりの目標達成をきめ細くサポートする体制が整えられています。さらに、本学経営学研究科および会計専門職研究科の大学院授業を先取り履修※することで、資格取得のみならず、実際に働き始めてから役立つ知識とスキルを理論的・実践的に学ぶこともできます。

※ e-ラーニング — パソコンやインターネットなどのIT技術を活用した新しい教育システム。インターネット環境があれば、時間や場所を問わず自分のペースで学習することができます。

※ COMPASS!! — 学生からの質問・相談に会計学科所属の専任教員が個別に答える“CAP独自の安心サポート体制”。事務室へ質問や相談をするだけで、内容に適した教員から個別に助言を受けられます。

※ 先取り履修 — 学部在学中に本学経営学研究科および会計専門職研究科設置科目を履修できる制度。本学部設置科目で不足している専門領域を補うことができます。また、単位を取得した場合、大学院に進学した後に申請することにより大学院の単位として認められます。



SUPPORT 4

未来のために挑戦しよう



資格取得

TOEIC® 試験 年1回・1年次は年2回(全額助成)

2019年度試験日 11月頃

TOEFL® 試験 iBT: 年1回、ITP: 年2回(全額助成)

2019年度試験日 iBT: 4月~1月/ITP: 7月・10月

各種外国語検定試験 年1回(全額助成)

2019年度検定試験日 6月頃・11月頃

ドイツ語(ゲーテ・ドイツ語検定)/フランス語(実用フランス語技能検定)/中国語(中国語検定)/ロシア語(ロシア語能力検定)/韓国語(ハングル能力検定)

日商簿記検定試験 年2回

2019年度検定試験日 6月・11月

『蒼樹』発行

自分の手で論文を書いてみよう！

論文やレポートの作成には論理的思考力が必要です。1・2年次に開講している「レポート・論文作成法」は、講義を通して明快な論理によって構成された文章を書く訓練ができます。4年次に提出する卒業論文制作への基礎づくりに役立つだけでなく、社会に出てからも応用可能な知の技術となります。履修学生が提出した課題論文の中で特に優れたものを集めて発行される「蒼樹」は、4月初めに1年生全員に配布され、「レポート・論文作成法」の授業でも使用されます。



『学生経営論集』発行

自分の書いた論文が、未来に残る冊子となり、未来の自分の糧となる

奨学制度として懸賞論文制度を設け、学生の教育・研究の振興を図っています。個人論文、共同論文に対し、優秀論文には5万円、佳作論文には3万円が授与されます。毎年多くの学生が、個人単位、ゼミ等のグループ単位で応募し競い合っています。昨年度は68本もの論文提出があり、入賞作品は「学生経営論集」として出版されます。



奨学金制度（学部独自運用分）

明治大学学業奨励給費奨学金

在学生の勉強意欲を高め、学業の更なる向上に資することを目的として、学業成績優秀者に対して給付します。年度ごとに選考を行います。継続して優秀な成績を修めることで4年間の授業料相当額を受給することも可能です。

GREAT 奨学金

3年次からの海外留学などさらなる飛躍を支援することを目的として、GREATを履修する2年次の学生を対象に選考を行い、奨学金を給付します。

※大学全体での奨学金制度については、奨学金情報誌『ASSIST』を参照してください。

早期卒業制度

大学院進学希望者や国家試験受験者・合格者を主な対象として、優秀な成績を収めれば在学3年間で大学卒業、学士学位の取得ができる早期卒業制度を導入しています。

大学院経営学研究科授業履修の勧め

3年次以上の学生は、所定の条件を満たしていれば、大学院経営学研究科の科目を16単位を上限として履修することができます。少人数で深い学習ができるとともに、大学院進学の際には、その単位を修了要件に含めることができます。3年早期卒業制度とあわせることで、学士＋修士学位の取得が5年で可能となります。

また、大学院経営学研究科において英語で行われる授業は、大学院経営学研究科と経営学部の共同設置科目となっております。経営学部の科目として履修し修得した単位は、経営学部の卒業要件単位に算入されます。



明治大学

<http://www.meiji.ac.jp/keiei/>

経営学部事務室

駿河台キャンパス

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 リバティタワー 5階
TEL: 03-3296-4194～5

和泉キャンパス

〒168-8555 東京都杉並区永福1-9-1 第一校舎1階
TEL: 03-5300-1151～2